
■第3回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議記録

日時：令和元年11月26日 午後15時30分から

場所：防災センター2階研修室

【出席委員】

川島 宏一 委員 狩野 良和 委員 川村 成二 委員 菊池 克幸 委員
櫻井 理恵 委員 西 山 正 委員 兵藤 昭彦 委員 古橋 智樹 委員

【欠席委員】

大塚 洋一郎 委員 小泉 敏明 委員 真藤 実男 委員 渡辺 一洋 委員

【事務局等】

稲生 政次（地域未来投資推進課 課長）
猪俣 直宏（地域未来投資推進課 課長補佐）
稲垣 陽介（地域未来投資推進課 主任）
菅谷 知央（地域未来投資推進課 主事）

【議題】

1. 開会
 2. あいさつ
 3. 議事
 - （1）第2期かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョンについて
 - （2）意見討論（自由討論）
 4. その他
 5. 閉会
-

1. 開 会

2. あいさつ（川島座長）

今日は久しぶりに6号線沿いから来ました。いつもは藤沢の方を回ってきますが。それで気づいたことがあって、前からあったのだと思いますが凄く巨大な建物がある。この地域には相当色々なビジネスが存在する、おそらく位置的な優位性があると思う。土浦はそもそも交通の要衝なので、位置的には水運の拠点として。つくばは圧倒的に人工的な街、TXが通って発展するのは当たり前。ここは元々立地として独特の位置と、周辺環境の自然特性を持っているような気がして、外的な要因ではなく内在的なものがあるので、その価値を世の中に分かってもらう。今の動きとして外国人が増えており、社会増に繋がっている。僕の感覚だと少しだが高齢者の社会増が増えている。社会現象を見る時にそこに住んでいる人はどういう人か、動いている人を見るとその環境が分かる。なぜならその環境の良さに惹きつけられてくる。よく水の環境とか、ゲンゴロウが住む場所は水が綺麗だという。そこに来る人間の性質を見るとその持っている価値が分かっていわれていて、

そういう意味でここはビジネス、製造業農業も含めて多様な可能性と魅力を持っていると思います。より深く自覚してその価値を多くの方が理解して、多様性ということも大切だが、まちひとしごとの中で仕事が生まれるというのは、新たなビジネス機会が組み合わさられるということ。例えば農業で貝塚さんの焼き芋は典型的、今までの芋に新たな品種が加わり、新たな加工とパッケージングとヒットチャンネルが整った。非常に革新的な技術があったというよりも、色々なものが組み合わさって出来た。そういう意味ではそれぞれの企業の方を含めて、様々なチャンスに恵まれていると認識して、さらに飛躍していただきたいと思います。

3. 議 事

～資料説明～

○座長：はい、ありがとうございます。ではご意見ご質問をお願いします。

○西山委員：今説明いただいた通り、第1期の計画に比べると事業の絞り込みがされて、実効性の高い内容になったのかなと感じています。その点は非常にポジティブに感じています。過去2回の委員会でもお話しましたが、これは市民の皆様に見ていただいて感じていただくことが前提として作る、そういう視点で話をする、素案ということなのでまたこれからの色々な人の意見が反映されると思いますが、現時点で書き足りていない内容が結構残っていると思います。例えば、すごく重要なp3第1期戦略の総括の部分、全体的に事業を見直して整理をされて、それぞれの事業についての進捗を整理されたが、その結果としてダイジェストがこれですと。第1期の取り組みの細かな総括をしたものが別紙の方にありますので、それを見てくださいという抱合せであればいいのですが、そうでなければダイジェストはもう少し書き込んだ方がいい。この1ページだけで総括というのは物足りない。将来人口の見通しは、施策誘導した場合に2020年で40,954人が目標値、実績値に近いものとしては40,833人。確かに数字通りの意味で若干足りなかったと総括した考えもあると思うが、それだけでは総括したといえない。それから総合戦略の個々の基本目標に沿った取り組みの状況も、もう少し具体的に書いてもらう必要がある。第2期戦略の展開、国の方針としてはこうだということを分かりやすくまとめてあるが、だからかすみがうら市としてはどうするのか、合わせて表明した方がいいと思います。そうしないと国の考えが入っただけのエピソードになってしまう。国はこう考えるけれども私たちはこう考えるということが別に表現されているのであれば調整していただいて。かすみがうら市の現状についても、現状こうですと言っぱなしになっている感じがする。現状を市役所としてどう捉えているか、次にどう活かしていく現状認識なのかをもう少し表現されてもいいと思う。今お話ししたところまで、伝えてなかったり単に国の方針の紹介に留まっている感じがしますので、皆さんの見解を市民の皆さんに伝わるように工夫した方がいい。次の人口ビジョンですが、基本的に見直ししませんということですが、確か第1回の会議資料にあったと思いますが、社人研の推計もその後見直されていますよね。

→社人研の推計は時点修正で変えてあります。

○西山委員：この2020年の40,589人は直近の推計値ですか？以前は700いくつかなかったと思うが。

→そうです。常住人口と比較して時点修正しています。

○西山委員：だとすると施策誘導値は、社人研の推計をベースに国の方で出してきたパラメーターで推計したはず。施策誘導値も変更になるのではないかと思うが、そこは変えない？

→国県の方の水準、将来人口予想は変えないで踏襲していく方針だったが、社人研の推計が目減りして

いる以上、こちらも見直す必要があるかもしれない。

○西山委員：確かに見直してしまうと、2060 年に 3 万人を維持する、という大きな目標を下げなければならなくなるので、簡単に判断できないかと思うが。

→県も変えてこないと思う、それに合わせるのが正しいかどうかは別の話ですが。

○西山委員：累年推計が下振れしたので、施策誘導値も下振れさせると現状値と重なると思う。第 1 期にやってきたことは、達成しようとしたことをクリアしていると言えると思う。事前に気になったことがもう少しあります。p 16、17 ですがこれは分かりづらいと思います。総合戦略の基本方針として第 1 期に掲げた 4 つは変えない、維持するということだと思うが、その次に出てくる要素が何なのか説明が少し足りない。その次の総合戦略の「基本理念」、「基本方針」と「基本理念」はどう違うのか。その下の策定の「視点」というのが出てくるが、それが何なのか。おそらくは国の方の戦略でも、第 2 期における新たな視点というのがある、4 つの基本目標は変えないけれども、推進にするにあたってこういう視点で取り組むというその考えでの視点だと思うんですけども、そのあたりが第 2 期の組み立てにどう影響するのか説明を入れた方がいいと思う。17 ページの下にカラーで総合戦略の基本理念の概念図があるが、これも理解されないのではないか。

○川村委員：3 ページの人口ビジョン、総括なので将来人口の見通しを書くのではなく、現時点での人口がどうかということを総括するべきだと思う。目標よりは若干下回っているものの、社人研の推計予測よりは上回っている、上回った効果を評価したほうがいい。総括して西山さんの言われた 9 ページの第二期人口ビジョン、ここで初めて第二期の人口ビジョンをこうしますとできる。つくりがずれているという、3 ページは総括で将来人口の見通しではないと思う。9 ページで将来人口の見通しとして 3 万人を維持する。私として分かりづらいのは人口ビジョン、将来の人口、推計値、施策誘導系など色々な言葉が出てきている。市民の人は分からない。見出しの第 1 期戦略における推計値という表現は、人口ビジョンの目標値にするとか、施策誘導系という表現を同じ言葉で統一してほしい。もう少し人口ビジョンのグラフをもっと強くアピールすべき。人口の増減の目標値がメインなので整理した方がいい。その他に 16 ページで関係人口という言葉が使われ始めたが、色々な研修で首都大学の先生の話聞いた時に交流人口より関係人口という言葉を使うようになっていましたので、非常にいいことだと思うが、交流人口と関係人口の違いが整理されているのか。

→交流人口は第 1 期でも KPI にしていたが、単純にイベント等に参加している方をカウントしている。関係人口は何らかのゆかりのある方、ふるさと寄付金など含め幅を広くした人口と事務方では認識している。

○川村委員：KPI でそういった整理がされているのか、25 ページで関係人口 15,000 人増、これは関係人口の数値が整理された人口なのか。第 1 期の計画の数値と比べて何を増やしているのか、その違いがあるのか市民が分からないと評価できない。使うのはいいが事務方で整理して目標値で数値を掴んでくださいと言わないとデータ把握する側がわからない。議会で説明されも理解できない。その辺は整理できるか。関係人口と一括りにしてしまつて。

→この KPI では交流人口との差が表現を変えただけになっている。

○川村委員：そうすると整理できないことになるので、KPI に使う表現としては問題がある。

→観光がメインになっていますけれど、交流として来ていただいた方から派生した、観光商工課でも関係人口ということは意識してまして、それを踏まえて参加者以外にも派生させるような口コミなど、それを意識したイベント等を行う予定です。参加者以外の幅の広い人口という意味を込めている。

○川村委員：関係人口で広く交流人口を拡大することによって、移住定住を増やす意味合いで関係人口

が多いが、そうした場合に基本目標として各目標の中に関係人口として数字がピックアップできる施策があると思うが、そこまで全体を整理して関係人口を。例えばカヌー指導者育成は5名ではなく、関係人口として目標は立てられないか。そうするともう少しKPIの見直しが必要になってくる。今からは大変だと思うが、関係人口を使うのであれば必要になってくると思います。

→前の戦略で、基本目標ごとのKPIが別に整理されているので盛り込んでいないが、単純にピックアップして前は上げていた。それを個別の目標を総括して関係人口として、KPIにすることは可能だと思いますので、その辺も含めて検討します。

○古橋委員：私は前回欠席したので、今から申すことが間違いかもしれないが。総括ということで欲しい内容は、国の自然増減に対してかすみがうら市の自然増減は5年間でこういうことであった、同じく社会増減はこうだった、外国人の方はこうだった。そういうものがあると、5年間の総括として引き込まれるのかなと思いました。私は今回2期ということで、1期の役割はなんだったのかと振り返ると、人口が減るという不安が過剰だったという感があるのですが、その中でかすみがうら市は、是非住み続けてください、住んでくださいというアプローチだったと思うんですが、2期はどういう形なのか、同じなのか、リニューアルするならもっと違うニュアンスを伝えるべきではないか。人口は減ってしまうが一人ひとりの能率性やアクティブ性は全面にした、励まされるようなイメージがほしい。もう少しそういうところが読み取れる部分が欲しいなと思いました。一つお尋ねしたいが、茨城県でも同じような創生の計画を立てているが、県との整合が取れているのか。途中経過を各市町村がシェアして踏まえてやっているのか疑問に思う。具体的に言うとSDGSの教育ということで、茨城県では中高一貫教育ということで、SDGSの教育理念と乖離していると見ている。SDGSの教育は公平な教育ということで、茨城県は舵をきって向上心のある人には環境を与えるようなやり方になっているが、数が少なくなる子どもにとってはハードルが一つ増えたので、整合性はどうなっているのか。

→県の進捗は年に数回報告を受けるが、整合性は取ってない。最後は県に上げて確認するが、県も事務的に各市町村から受けて目を通すレベルで指摘があったりはしない。そこは改めて県と接触していきたい。

○古橋委員：茨城県がSDGSの教育を掲げてやっているんですか？

→全国的には小中学校で学科として踏み込んでいる。正直KPIとして設定することが正しいのか疑問ではあるが、戦略としてではなく、文科省の指導でやることにはなっている。

○古橋委員：あと一つ近隣市との関係、つくば市や土浦市の役割、共存共栄するためには分業してかすみがうら市の得意な部分で、かすみがうら市の需要というところで見たいですし、都市計画ということであれば土浦市が業務核都市となって、かすみがうら市はその衛星都市となっているわけですから、そのような中で人口などどういうチャンスがあるかということを記載してほしい。

○座長：皆さんご指摘その通りだと思います。まとめ方の問題のことです。最初に全体の構成を分かりやすく模式的に示す。第1期の総括があって、それを踏まえた第2期の違いを明確にしてそこから構成を考える。最初に全体のナビゲーションがあったほうがいい。振り返ったうえで評価してそれを踏まえて将来の対応を考えて、ある程度修正をしてこの方向にする。バージョンアップを意味するところが、ちょっとメリハリがなく分かりづらい。どうやってメリハリをつけるか、見せ方のテクニックになると思うが、6ページの下の方の図は緑色が久しぶりに上に顔を出した。自然減は基本どうしようもない、出生率はすぐには上がらない。社会増が人為的な施策の効果が表れた、これはすごいこと。先ほど他の自治体と比較すべきだと議論があって、もっと自身を持って我々は成果を出しているというべき。何でできたのか、特徴的な9ページの下の方の表、外国人が増えている。ベトナム人何でこ

んなに増えているのか。平成 29 年～30 年、ベトナムだけ 2 倍近い伸びがあるが何故なのか。農業なのか製造業なのか。一番いいのはこの動きは施策の効果だとストーリー付けられること。直接的でなくとも間接的に効いている可能性がある。そういう意味付けをして第 1 期の施策が具体的な成果になっている、総括的には社会増につながっている。そうすると、外国人の位置づけをどう位置づけるかということが問題で、議会でもちゃんと議論されるべきだと思うが、ここをしっかりといい意味で伸ばすことが、かすみがうら市にとっては今後の人口的な動きを左右する。伸びている芽を伸ばす。もちろんその他、第 1 期の 4 つの柱とか方針があってそれぞれ伸びていく。仕事の間を作るということが効いてきていると思う。人口には効いてこないが生活の満足度には効いている部分があるはず。すぐには効かないが、伏線として底上げしている部分をちゃんと読み取る。統計を 100%客観的に読み取るのは難しいので、ある視点を持って、こじつけない程度の説得力を持って意味付ければいいと思います。成果が上がっているものはちゃんと主張すべきだし、できていないこともある、農業公社とか。できなかったということよりやらなくて良かったかもしれないし、そういうことを分別を持って向き合って発展させる。逆のことを言うと、19 ページ以降の個別施策の表、気になるのは担当部署や関連部署が書いてあるが、それぞれの担当部署が果たすべき役割の度合い、担当課は担当していることの意味合いを深く理解しているか分からない。主導的に目標値を果たせるのか、そうではない部分が多いが、協働的な外側のパートナーは誰なのか。具体的な支援、事業は予算が付いていると思うが、その予算の提供相手が発動した成果が KPI と連動するはず。担当課が自らやる部分なのか、協力してやる部分なのか、はっきりとやらなくても情報提供でいいのか。責任の強弱の話ではなく、妥当な責任感覚があるはず。そういうことがもう少し、それぞれの担当課に意識してもらえるように。どういうふうを書くかという問題よりも、実際に実行されて成果を上げるということは自分の仕事として具体的に動かす度合いを理解してやる、KPI を達成するために担当課と関連課、足りないなら誰に入ってもらえるか考えなければならない。僕の場合は、この KPI は安全側で書いているはず。おそらく自分たちだけでやり切れるゾーンを書いている、それがふさわしくない施策もあるはず。なぜかという、担当課が直接やる事業のインパクト、二次的に効いてくることによって関連人口何人という部分が大きい。本当に目標とすることが、直接的な影響の度合いを越えた部分であるべき。担当課とのやり取りの中では責任の取れる低めになる。今までの KPI は達成されないと批判される KPI と受け止められがちだが、これはそうではないと担当課に安心してもらった方がいい。役所がこれやるんで一緒にやってその目標に向かって増幅効果を出して、そこで価値を上げることに意味がある。KPI の立て方、そもそものこの文書の性格が、役所がやるのでみんなでやりましょうではない、企業や市民団体含めて。その人たちにも責任感覚を投げないといけない。外側の責任感覚と合わせて KPI というスタイルが望ましい、その辺のコミュニケーションをやれてないので書けない。外側に対するインパクト、外側の力を増幅させられるか、刺激を与えられるか。

- 古橋委員：座長も言ったんですが、社会増の雇用内訳も欲しい。産業がどういうところ、外国人の農業収入が多いとか。私が人口をあまり悲観的になりすぎないでというのは、日本は 1 億 2 千万人いるが、世界の中でどういう状況か存じない方もいると思いますが、韓国が 6 千万人、アメリカはあれだけ広くて 3 億人、西ヨーロッパが 6 千万人くらいだとか、日本は減っているといえど島国でこれだけアクティブなんで希望を持つべき。かすみがうら市の立ち位置は 4 万人くらいだの人口だが、少しイメージを持ちながら、外国の方と多文化共生でやるうえで必要かと思うし、今後の生産性は外国人の方の力なしにあり得ないわけなので、日本の人口だけストックに考えるのではなく、世界的な流れもある程度第 2 期には必要ではないかなと思います。

○兵藤委員：色々言いたいことがあって辻褄が合うか分かりませんが、担当部署がありますが、全体会議というのはやっているんですか？担当課の代表が出席して互いの課の進捗状況の確認はされていますか？

→それは進行管理表ということで、この場でも報告していますが、前提となるのは各部署のヒアリングです。

○兵藤委員：それは事務局と担当部署のマンツーマンですね、全体では？

→全体的な会議はその上の本部会議という部長級で構成した会議になります。

○兵藤委員：私は商売柄、他のこと分からないのですが、1-2-1販路の拡大の観光商工課という部分。農業と出てくるが、農家が商工会に入っている割合はどのくらいあるかとか、そういうものが必要になってくると思う。農村への移住のところで、農業員委員会というのがありましたよね。農業委員会のできるのかなど。みんなで全体会議のようなものを作って、各課の問題など話し合って他の部署から助言や協力を取り付ける方が、より実効性のあるものができるのではないかな。先程から必要なのは実効性だとおっしゃっているが、これの文言チェックとが数字のつじつま合わせは役所でやっていただきたい。我々が何故会議に呼ばれているのか、これが机上論にならないようにすることが大事ではないかな。全体的な情報収集や会議を全体的なものでやっていただく方が、実行力があるのではないかなと思います。この会議に何年か前に呼ばれた時に、当然ここには格好の良いことが書いてあって、それを全部否定することはしませんが、本当にできるのか疑問に思うことは当然だと思います。我々がそれをいちいちあげ足取りをするわけにはいかないので、市の方からこういう課題が出ましたなど、われわれ民間人の意見を述べさせていただいた方がより役目に活かされる気がします。これにもありますけれども、つくば市に住みたいとかありますが、どう考えてもかすみがうら市は不利です。つくば市には茗溪学園や並木高校などそこに子供を通わせたいために、引っ越してきて、学校行かせる親御さんが非常に多い。そこで結果的に子どもが卒業した時にそこに住み続ける可能性が高く、かすみがうら市は非常に不利です。不利なのを承知の上でこれをやるしかないなので、この中で1つでも2つでも実効性を持たせて前に進めるように、我々の意見として集めて欲しいと思います。とにかく机上論で済ませないように、100書いてあるから100やるというのでは無理だと思うので、100のうちで実効性があることをやるように。今日の茨城新聞でも歩崎の古民家、ああいったもので1つでも成果が生まれた、その今後の問題点など出てくると思うので、その辺を我々民間の意見を引き出してもらうような会議をしてもらえればと思います。

○狩野委員：今の兵藤さんの意見にも通じるものがあるが、総合戦略の第1期の取り組みがあって、その課題があって、施策の概要が書いてあって、具体的な事業が書いてあるんですが、事業を見ていてみんなで同じイメージが持てるのかな？と思いました。これは実際にどういうことをするのかなど。どこを見ていくとこれに対する答えみたいなものがあるのか。実際にうちで会議していても、ベテランと新人で共通理解がされていない。なので、より具体的にイメージが沸くように紙に書いてもらって回すようにしています。我々の世界は、ベテランも新人も同じように子どもたちに教育しないといけないので、そういうのが大事だと思っています。同じラインに立てるように、人によってイメージが違っていることがないように。

○座長：事業の内容の説明は、何か他に公表されているものがあるんですか？

→ものによっては、あるものもありますが、基本的には細かく説明していない。1つの施策に対してポリシーにしまっているもので、もう少し分かりやすく示す必要はあるかなと思う。

○座長：何か資料編というか。

→アクションプランの進行管理には具体的な内容が入るので。

○座長：アクションプランは公表されますよね？

→します。半年に1回、9月末と3月末に状況を示します。

○座長：パブコメする時にはそのレベルのものは出ない？

→出ないです。前回のものをHPで見ることができます。

○座長：前回のものを見ればイメージは出る？

→分かると思いますが、アクションプランは膨大なのでどこまで見るか。

○座長：関心のある方が関心のある項目を深く知りたいという読み方をするので、そういう方にちゃんと説明ができていれば。

○菊池委員：4～5ページにかけて国の施策、書いてある分量が多いので反映されていると期待を思ってしまうのですが、よく読むと詳細に書いてあるがそこまで反映されてなくて、ここをもっと簡略化して、この中のどこをかすみがうら市の第2期戦略で生かしたかを文章で説明してもらわないと分からない。16ページにはいきなり表が出てきますよね、その後に理念や視点、これがよく分からないので整理して書いてほしい。兵藤さんのお話聞いていて思ったんですが、計画を立てられた事務方のご苦労を感じますが、例えばパブコメを経て第二期戦略が始まりますが、キックオフパーティではないがワールドカフェのというのがありますよね。フォーラムはパネラーが話して聞くだけだが、ワールドカフェのようなものができると思うんです。NPOのファシリティやっている方もいるので、そういう方を呼んで、市の活性化に向けて何か問を立ててちょっとやってもいいのかなと思います。それと成人式のヒアリングのまとめですが、公共交通の利便性が強いと感じます。それに対する具体的な施策が入っていないように感じる。もし入っているなら後でご指摘ください。それと公共交通もそうですが、集落の問題、高齢化が進めば交通弱者が増えてくるので、常磐線1本では駄目だし、路線バスはどんどん減っていくと思います。何が必要かということコミュニティ交通というものがありますが、やはりNPOなどの力を活用してやっていく検討もしていただきたい。

○桜井委員：10ページの20年後のかすみがうら市の暮らしとありますが、これは20年後ですか？もうなっているんじゃないかと。11～14ページくらいまでの内容は現状ではないか、良く分からない。ここに20年後と書いてあるのが違和感に思う。そこら辺が書き方というか20年後はもっと違うのではないか。26ページの2-2-1の課題のところ、市内事業者の参加を含めた受け入れ態勢の強化、これはどういうことを示しているのか。

→今まで市が主体で板橋区からバスツアーなどしていたが、観光課の職員がスタッフとしてアテンドしていたが、それだけでは市内の事業者にも落ちていないやり方だった。未来づくりカンパニーは地域の事業者とつなげながらお客さんを迎えてお金を落とす仕組みを作るのが基本の会社なので、観光企画を中心にやっていこうということです。役所がやっているようなやり方ではなく。未来づくりカンパニーがライドクエストというのをやって、桜井さんなどにつながったようなものを、市として後方支援していこうという動きです。

○兵藤委員：これは3セクだから未来づくりカンパニーの名前を上げている？

→未来づくりカンパニーがやっているような動きを他の事業者も連携してやっていく。

○兵藤委員：市の資料に名前が出るのは3セクだから？

→そうですね。

○兵藤委員：農業委員会のところで私が勘違いしていましたが、関連部署として農業委員会が上がっているのですね。

→そうですね。市街化調整区域の空き家は基本、外から来た人は住めないことになっています。最近、農業委員会が農地付き空き家については空き家バンクに登録して、農業委員会で承認を得た空き家物件は、農地付き空き家として、外から新規就農目的で来た人は住めるように仕組みを緩和した。今月の農業委員会で正式に決まった。1アール以上の農地付き空き家物件は、空き家バンクに登録できると緩和策を農業委員会主導で、生活環境課の空き家バンクの対策と連動してやる仕組みを作りました。調整区域の空き家対策にもなる、新しい動きが出ています。

○兵藤委員：1アールは一畝？

→一畝です。現実的には一畝の農地付き空き家は一畝以上あると思いますが、そこを緩和した制度が最近できたので、新しい動きとして盛り込んだ。

○兵藤委員：一畝の農地付き空き家を緩和したのはどういうターゲットを見据えたものですか？

→新規就農として来る方に対して。一畝は農業として現実的に成り立たないが、空き家バンクとして物件登録できる緩和をした。新規就農する方は一畝以上農地を持つと思うが、制度として市街化調整区域に来やすくする緩和をした。

○兵藤委員：30坪くらいですか。

→家庭菜園レベルですね。一畝は100平米なので。

○座長：今までの登録要件はどんなものですか？

→これまでは1000平米以上です。

○兵藤委員：担当部署と関連部署のすり合わせくらいはやっている？

→やっています。各課のヒアリングになりますが、推進部署と関連部署で認識を持ってもらってヒアリングしてます。

○西山委員：今思ったんですけど、今回の戦略とビジョン、市内の方に聞いたヒアリングやアンケート結果は入るんでしょうか。第1期の時に人口ビジョンのヒアリング・アンケート結果が入ったと思います。国の方で地方版の総合戦略の反省点を取りまとめた時、有識者の指摘が多かったのは、住民の声があまり反映されていない、戦略づくりに市民の参加が少なかったというのが反省点として挙がっていました。この間2回目の有識者会議で、転入転出者アンケートやPTA関係者へのヒアリング、成人式実行委員会の方のヒアリングがまとめられていましたが、結果だけでなくきちんとまとめてこういう指摘があったとか、こういう期待があったとか、そういう内容を戦略の中に盛り込んでいいのではないかと思います。個人的には住民の方がおっしゃること全てに対応するのは物理的に不可能と思いますが、それを前提に、きちんと話を聞くという姿勢は必要だと思うので、そういう姿勢の下に戦略をまとめたということをアピールする上で、きちんとこの中に取り込んでいってほしいと思います。当然のことながら個別の取組はヒアリングやアンケートに立脚する形でできていると思うので、個別の取組が単に役所の思いつきではないという裏付けとしても必要だと思います。

○座長：それは編集することは可能ですか？

→そういった形にまとめてはあるので追加することは可能である。よく考察たうえで追加の検討を進める。

○川村委員：一覧表を見ると、担当課で観光商工が多い。実際の総合戦略の施策とは直接関係ないが、担当課としてはもっと強化してほしいとか、人を増やしてほしいとか、専門家を配置してほしいとか、職場での改善要望の吸い上げ対応はどのように考えていますか？

→それについては、観光の方からも業務が積み重なっているという話は聞いています。組織的にいじって分割して担えるように、政策系と調整も内々では行っています。今回は観光商工の担当課で明記し

ていますが、来年度以降は組織改編と合わせて見直していくという見込みではあります。これがすべて観光商工で担えるとは思っていません。2つくらいの部門で振り分けることも考えています。

○川村委員：来年度の組織改編に向けて今から取り組まないと間に合わない。

→ある程度のイメージは持ってます。

○川村委員：ぜひ積極的にやって下さい。

○兵藤委員：いち委員として、ぜひ市長に本気でやるのであれば人員配置も柔軟に積極的に行うようにと提言します、とぜひ市長に報告していただきたい。

○古橋委員：観光商工課も大変でしょうから、稲生課長のところで広告パッケージは地域未来推進課でやるから、ということであれば実効性も高まってイメージも統一性が出ていいと思います。市長の菊池さんのところでお願いしている事業の紹介は古いので、200万もお金かけるならもっと創生の関連としてアピールして、そういうところにお金かけていただきたい。土浦イオンのフードコードの液晶のところ、サイクリングは是非かすみキッチンまで走ってください、みたいなものを見かけたいと食事して思いました。予算は増やせないなら1人減らしてでも広告パッケージ取組むくらいの実効性を上げていただきたいと思いました。

○座長：計画は実効性でなんぼなので、どんなに美しい計画より綺麗でなくても実効性があった方がいい。みなさんのご意見はそこに重心があって、どう実行するか体制やアクションにつなげていくこれからの協議の仕方が書いてない。例えばワールドカフェをやって関係者と理解を深めましょうと。それぞれテーマごとに専門家が掘り下げて役割分担を決めるとかあり得ると思います。これをどうアクションにつなげるか方策を書く必要がある。

→まだ素案の段階で、全体構成含めて実施体制がまだ入っていないので、今後載せていきます。

○座長：先ほど兵藤さんがおっしゃった、役所の中の横の連携ほど重要なものはないです。外側は重要ですが、役所の中で観光商工課と未来投資と農業とどこかが連携すれば、なにかできるのではないかな。役所は自分の所管以外はやらない文化がはびこっているんで、フレキシブルに若干責任の境界線は曖昧になってもお互いがその仕事をやり合う。境界領域の仕事をプロジェクト体制で進めることが大事。こういう風にやると全体が仕分けされた役割分担されたイメージがわくけど、進めていくうちに役割分担の比重が変わったり世の中の動きが変わったり対応する必要があるが、ある程度プロジェクトベースで組織横断的に事業を進める体制を考えてほしい。先程のワールドカフェは効果があると思います。一気に100人200人規模で議論ができるので、多くの方に自分ごととして議論を咀嚼していただける可能性がある。そういう関連の企業や農業、観光農園の方とか。観光農園がたくさんあるが連携したイベントとかあるんですか。

○兵藤委員：市内に2つ観光協会があって、それぞれにやっている。

○座長：かなり貴重な意見が出ました。先ほど古橋委員からニュアンスの違いが出た方がいいという話がありましたが、第1期で社会増が成功して就業の機会が出来て外国人が増えた論理ができる。全体の書き方を見ると、観光商業的なプロモーションに比重がある気がして、比重的にいうと今までは第1章は仕事作りに重点があって成果をあげて、次に地域の個性作りに軸足を移すのかなと。戦略は方向性を示して、ある程度市民の交流のバランスをずらす、はっきり言い過ぎると反発もあるが、メリハリをどうするか第1期を振り返る必要がある。未来づくりの動きなど地域を積極的にPRする動きがあって、そこが起爆剤になって色々な効果を出していくのが何となく見える。あの動きはかすみがうら市の個性を芽づる式に引っ張る可能性がある。そういうことでいいのかどうか、メリハリの軸足をどこにするのか。今までの成果を振り返って少しシフトしているので、そこをはっきり言った方が

いい。あと広報の仕方、これだけでは説明足りないという意見もあるが、これでも読むのが大変なので A4 で 1 枚とかならないか。結局どう使うのか。Web サイトに出て市民が来たら渡すのかもしれないが、これを世の中にプロモーションして、フィードバックもらって次のステップに繋げていくのが必要で、そのために見せ方をどうあるべきか。これだけだと読まないと思う。

○兵藤委員：議会ではこういう話はしないんですか？

○川村委員：しないです。全員集まって話すというのはない。こういう取り組みをしてますという報告はありますが、特段意見は出ないです。

○兵藤委員：議員の方はこれをご覧になっていない？

→素案の段階ですので、パブコメ終わった後にまとまった段階で配布します。

○川村委員：見せ方というのであれば動画。

○座長：地域でそういうのやってくれる IT 企業ないですかね。

○座長：生の農業やってる人の声とか、聞けば読まなくていい。読むの大変。つくばもそういうのやっています。つくばスタイルとか、つくばでサイクリングやって床屋さんやっていますとか。みんなが本当の生の声で宣伝している。

○川村委員：総括よりも今後に向けた第 2 期のポイントとしてそういうものが PR できれば、何をしようとしているのか伝わりやすい気がします。

○西山委員：ニュアンスの話、第 1 期を担当していましたが、とにかく市の資源を活かす、かすみがうら市を知ってもらうことに注力していた。その結果として人口は社会増になって、企業の誘致も順調で、働く場も増えたことが第 1 期の成果。それを踏まえて第 2 期は観光の面でいえば、関係人口を増やしていくことであるし、企業誘致の観点で言えば仕事の関係で来た人に長く住んでもらう、どう住みやすい地域づくりをしていくかが第 2 期のテーマになっていくと思うので、そのあたりでニュアンスの違いがつけられるといいと思います。

○桜井委員：14 ページの子供の成長が変わりますという部分で気になったのですが、スマホで問題になっていますが、20 年後は子供のうちからかなり当たり前になっていくので、扱い方もこんな風になりますというのを取り入れたいです。

○西山委員：20 年というか、この計画が終わる頃にはこうなっていますよね。

→11 ページ以降は本戦略を通じてこういうことができる、最初の 10 ページは別としてそういうイメージです。

→皆さんに伺いたいのですが、20 年後のかすみがうら市はどういう市になっているか、どういうものを求めるとか、ご意見あればありがたいです。これは開発中のものや都内では既に行われているものですが、こんなものがあつたらいいとか。

○桜井委員：つくば研究学園都市が隣にあるのでそこからの情報とか、そこと交流としてそちらのいいものとかこちらに取り入れる。農業や教育、保育園とか、ここで気になったのは 11 ページの B さんは少し違和感を感じる、もう少し違うと思う。近所の祖父母に預けて安心と書いてありますが、今は 65 歳以上 70 代 80 代まで働かないといけない。この文言は違和感がある。すでに出来ている状態、重複しているものを文章から省いていく必要があると思う。同じものを繰り返している感じがする。つくばに近いのでそちらのメリットを得られる取り組みがあつていいと思う。

○座長：戦略を作る時の考え方として、柔道や合気道のようなスタイルがいいと言われている。要するに相手の力を使って技をかける。つくば市という相手がいる時にそこに研究所の人たちの力を使って何かをする。研究開発でコラボするかもしれないし、農業体験してくれるかもしれない。一番巧みな

戦略は弱みが強みに変換する。昔ノキアというフィンランドの携帯が流行りましたが、フィンランドで何故ノキアが発達したかという、広大なスカンジナビア半島にパラパラとしか人が住んでいないので、有線電話が引けなかった。無線しか使えない不利なところが無線電話が発展する土壌になった。今は不利だけど 10 年先は逆転する可能性がある。つくばの動きも外国人もそうだが、違った角度で活かす。外国人が増えているということは、外国人の子どもも増えていて小学校に来ていて、ある種インターナショナルスクールになっていて、そこでは非常に多様な文化に小さい頃から接することができるような売り込み方ができると際立つ部分が出てくる。公共交通がないことも上手く活かすべき。最近どこかで、本当に道のりが悪いところにインバウンドでお客さんが押し寄せたとか。今までの観点を変わるとどこかで逆転する。そういうのがどこにも必ずある。成功したパターンを引きずるので、新しい動きに対する変化に早く乗れる。かすみがうら市は人口が多くないので、変化の激しい現在の社会では小回りが効いて有利。

○川村委員：6 ページの人口ピラミッド、2045 年と 2015 年を比べると生産年齢人口が大幅に減っていて、市の税収としても収入が減っていく。企業誘致がうまく行けばいいが、財源の確保の低下。ざっと人口が 5000 人減る中で、デメリットが 10 ページの市の暮らしの中に触れられていない。当然、人口に合わせて市の職員も減ると思うので、今の行政サービスがそのまま継続する形で表現がされているが、20 年後は大幅な変化があると思うので、市民が協働でやらないといけないことが増えてくる。市ができることできないことが大幅に整理されてくるので、20 年後を全然見ていないような感じに見えてしまうので、もっと整理された方が未来像として見えてくると思う。

○座長：リアルな部分を冷静に書く必要がある。特に実効性のあるものにしたいというご意見を実現させるためのつなぎを書いていただきたいです。パブコメもありますが、市役所の体制づくりは大事なもので、遠慮せずに言うべきですね。有識者からも意見がありました。色々な意見がありますが、コンテンツはかなりあるので、そんなにお金かけずにできると思うので、会議の意見を活かしていただきたい。

→全体構成を市民が見やすいように、考察も含めて弱いところ、人口ビジョンを分けるかどうかなど検討して修正版という形でお示ししたいと思います。

○座長：基本的には色々意見が出ておりますので、それを踏まえて修正していただければ我々としてはいいと思う。最終構成したものを見せていただいて、最後にコメントが必要ということであればメールで反応していただいて、最後に更正が必要であれば私に任していただくしかありませんが、必ず責任は取りますので。長時間に渡りお疲れ様でした。

以上